

岡崎生まれの天才いとこ

かなえ かい た 山本 鼎と村山 槐多

岡崎市美術館



激動の大正時代、彗星のごとく現れ、熱い輝きを放って消えていった詩人画家、**村山槐多**。彼は絵画と文芸に鋭い感性を発揮しました。しかし極度の貧困と失恋、制作上の苦しみなどから放浪と退廃の生活を送り、激しくも短い22年の生涯を閉じました。**高村光太郎**は「火だるま槐多」と呼んで、その早すぎる死を惜しみました。

村山の詩を読んだ**芥川龍之介**は「作者の心には、直ちに我等を動かすべき芸術の士の尊さがある」と賞賛し、**与謝野晶子**は「槐多さんの芸術は偉大なる驚異です」と感嘆しました。絵画の分野では**横山大観**が、無名だった村山18歳の水彩画を自身で買い上げています。没後100年を経た現在も、詩、絵画ともに高く評価されています。

いとこ（両母が岡崎生まれの姉妹）の画家**山本鼎**は、創作版画の創始者であり巨匠。村山の並外れた才能を見出し、画家になる援助を続けましたが、100年前のスペイン風邪のパンデミックによって村山を失い絶望、それを機に当時の模写しか認めない美術教育を変革し、子供たちの才能を伸ばすべく「自由画教育」を全国に普及させました。

日本近代美術史に重要な位置づけがなされる二人の芸術家の、深い絆で結ばれたその生涯を岡崎市のコレクションを中心にご覧いただきます。



常設展示室テーマ展

令和3年7月1日（土）～令和4年1月30日（日）

- 1、テーマ展示：岡崎生まれの天才いとこ 山本鼎と村山槐多
- 2、郷土作家セレクション：荻太郎
- 3、彫刻展示：鈴木政夫 山下清

※一部変更する場合があります。